

R Remote Version 3 ユーザーガイド

ヤマハ製品をご愛用いただきまして、まことにありがとうございます。

このユーザーガイドでは、Rio3224-D/Rio1608-D/Ri8-D/Ro8-D/RSio64-D/RMio64-D(以降 R シリーズ)の各種パラメーターの設定を単独で行なう Windows/Mac アプリケーション「R Remote」のセットアップ方法と操作方法について説明します。

1 台のコンピューターで最大 24 台までの R シリーズのパラメーターの設定ができます。R シリーズがつながっていないなくても、仮想的にマウントしてあらかじめ設定しておくこともできます。

また、対応する R シリーズには同時に 2 台までの R Remote をインストールしたコンピューターを接続できます。これによりたとえば、メインのオペレーターは CL などのコンソールで操作し、2 人のアシスタントが異なる場所で微調整をするなどのことができるようになります。



■注記(ご使用上の注意)

- このソフトウェアおよびユーザーガイドの著作権は、すべてヤマハ株式会社が所有します。
- ソフトウェアおよびユーザーガイドの一部、または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このユーザーガイドに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- このソフトウェアは Windows 8 / Windows 8.1 でのタッチパネルで操作する目的では製作されていないので、タッチパネルによる操作の動作保証はしていません。
- Dante は、Audinate 社の登録商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac または Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。
- その他掲載されている会社名および商品名は、各社の商標および登録商標です。
- 説明のための画像は、Windows 版を使っています。ただし、Mac 版だけの機能を説明するための画像は、Mac 版を使っています。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

目次

■ユーザーガイド(PDF ファイル)の操作について.....	4
■動作環境.....	4
操作について.....	4
■セットアップ.....	5
R Remote をインストールする	5
R シリーズの設定をする	6
Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D / Ro8-D の場合 :	6
RSio64-D の場合 :	7
RMio64-D の場合 :	8
コンピューターと R シリーズを接続する	9
R シリーズの電源を入れる	9
コンピューターの IP アドレスを設定する.....	10
Windows の場合.....	10
Mac の場合	12
Dante Controller または CL/QL シリーズでルーティングをする.....	12
■R Remote を操作する.....	13
メニューバー.....	13
エリア構成	14
機器選択エリア	15
情報表示エリア	15
メインエリア.....	16
Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D の場合.....	16
Ro8-D の場合	20
RSio64-D の場合	21
RMio64-D の場合.....	25
「Network Setup」ダイアログ	27
「Device Information」ダイアログ	28
「IP Address」ダイアログ	29
「Properties」ダイアログ	30
■ソフトウェアのアンインストール (アプリケーションの削除).....	31
■困ったときは.....	32
10 進数/16 進数早見表.....	34

■ ユーザーガイド(PDF ファイル)の操作について

- ・目次や本文中でリンク先があるところでは、リンクをクリックすると、該当ページへ移動できます。
- ・Adobe Reader の「編集」メニューから「検索」または「簡易検索」を選び、調べたいキーワードを入力することで、キーワードによる全文検索ができます。
- ・ファイルの左側に表示されている「しおり」上で見たい項目をクリックすると、該当ページへ移動できます。(しおりが表示されていない場合は、左上の「しおり」タブをクリックするとしおりが表示されます。)

■ 動作環境

R Remote を使用するためには以下のものをご用意ください。

- 次の条件を備えたコンピューター

OS	Windows 7 SP1 Home Premium 以上, Windows 8, Windows 8.1 (Windows は 32bit/64bit の両方に対応しています) Mac OS X 10.9.5, 10.10.x
CPU	Intel Core i3/i5 以上
HDD	120MB 以上の空き容量
端子	Ethernet 端子(1000BASE-T 以上)
その他	Dante Controller がインストールされていること ^(*)

(*)下記ウェブサイトの Dante Controller ダウンロードページからダウンロードしてご利用ください。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/>

- Ethernet ケーブル(CAT5e 以上)
- ネットワークスイッチ(ギガビットイーサネット対応)
- ファームウェアが V3.00 以降の R シリーズ(24 台まで)

操作について

ショートカット

ショートカットは、<Windows のキー> (<Mac のキー>) +<キー>またはクリックと記しています。たとえば、<Ctrl> (<command>) +クリックは、Windows では<Ctrl>キーを押したまま、Mac では<command>キーを押したまま、クリックをします。

右クリック

Mac では<Control>キーを押しながらクリックをしてください。

■セットアップ

以下の流れでセットアップをします。



R シリーズの結線や設定の詳細については、R シリーズの取扱説明書も合わせてご参照ください。

R Remote をインストールする

以下の手順で、インストールできます。

1. 管理者権限のあるアカウントで Windows にログオン、または Mac にログインします。
2. ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」(Windows)または「Install R Remote Vxxx.pkg」(Mac)(xxx はバージョン)をダブルクリックする。

R Remote のセットアップダイアログが表示されます。

NOTE

- Windows で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。

3. 画面の指示に従ってインストールを実行します。

Rシリーズの設定をする

Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D / Ro8-D の場合 :

R Remote で Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D / Ro8-D を操作する場合は、以下の設定項目に注意してディップスイッチや[UNIT ID]ロータリースイッチを設定してください。

- UNIT ID は 1 から 24(16 進数で 18)の範囲で設定してください。0 または 25 以上だと R Remote が認識しません。(10 進数と 16 進数の変換については「[10 進数/16 進数早見表](#)」を参照してください。)
- ディップスイッチの設定は以下の組み合わせにしてください。ディップスイッチ 5 と 6 は上にする

・ UNIT ID

設定	ディップスイッチ
UNIT ID の範囲を 1 から F	 1 (1 を上)
UNIT ID の範囲を 10 から 1F	 1 (1 を下)

・ IP アドレス

R Remote でコントロールするための IP アドレスを設定します。これはコントロール用の設定であり、Dante ネットワークの IP アドレスとは異なりますので、Dante Controller で設定する IP アドレスとは異なります。

R シリーズをご購入後初めてコンピューターと接続するときは、STATIC IP(MANUAL)以外に設定してください。また、STATIC IP(MANUAL)を設定したい場合は、R Remote から IP アドレスを設定したあとで STATIC IP(MANUAL)に切り替えてください。

設定	ディップスイッチ
AUTO IP (Dante ネットワークが自動的に IP アドレスを 169.254.xx.xx に設定する)	 2 3 (2 と 3 を上)
DHCP (DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスを設定する)	 2 3 (2 が下で、3 が上)
STATIC IP(AUTO) (IP アドレスを 192.168.0.xx(xx= UNIT ID)に設定する)	 2 3 (2 が上で、3 が下)
STATIC IP(MANUAL) (IP アドレスを R Remote などで設定した値に設定する)	 2 3 (2 と 3 を下)

【NOTE】

Dante 機器および R Remote だけでネットワークを構築している場合は、AUTO IP にすることをおすすめします。既存のネットワークに接続する場合は、DHCP を必要に応じて選択してください。

固定 IP アドレスを設定する場合は **STATIC IP** にしてください。ゾーニングなどで IP アドレスを指定したり、既存のネットワークに接続するが IP アドレスを固定したりする場合は、**STATIC IP(MANUAL)** にして **R Remote** で IP アドレスを設定してください。

・接続方法

設定	ディップスイッチ
DAISY CHAIN	 $\overline{4}$ (4 を上)
REDUNDANT	 $\overline{4}$ (4 を下)

・START UP MODE

設定	ディップスイッチ
REFRESH (内部メモリーの一部を初期化して起動する。初期化されると各設定は以下となる) <ul style="list-style-type: none"> ・ HA GAIN (-6 dB) ・ +48V (OFF) ・ HPF (OFF) ・ HPF FREQ (80Hz) ・ Gain Compensation (OFF)) 	 $\overline{7} \quad \overline{8}$ (7 と 8 を上)
RESUME (前回電源をオフにする前の状態で起動する)	 $\overline{7} \quad \overline{8}$ (7 を下、8 を上)

NOTE

CL/QL シリーズを接続していない場合、**START UP MODE** を **RESUME** にすることをおすすめします。**REFRESH** にすると、**R** シリーズを再起動するたびに、**R Remote** から設定を送る必要があります。

RSio64-D の場合 :

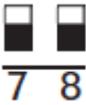
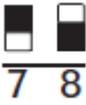
R Remote で **RSio64-D** を操作する場合は、以下の設定項目に注意してディップスイッチや[UNIT ID]ロータリースイッチを設定してください。

ディップスイッチの設定は以下にしてください。

・接続方法

設定	ディップスイッチ
DAISY CHAIN	 $\overline{4}$ (4 を上)
REDUNDANT	 $\overline{4}$ (4 を下)

・ START UP MODE

設定	ディップスイッチ
NORMAL (前回起動時の設定で、通常起動する)	 (7 と 8 を上)
INITIALIZE (内部メモリーの設定を以下の様に初期化して起動する) <ul style="list-style-type: none"> ・ SLOT 1-4 SRC (OFF) ・ WORD CLOCK SELECT (DANTE/48kHz) ・ USER PATTERN (プリセットの PATTERN #1 と同じルーティング設定) ・ STATIC IP (Manual) (0.0.0.0) ・ パネルロック (ロック解除) ・ Dante パッチ (すべて OFF) ・ Dante デバイスラベル (Y001-Yamaha-RSio64-D-123456) (*1)) 	 (7 を下、8 を上)

(*1) Dante デバイスラベルの 3、4 文字目は機器設定ディップスイッチ 1 および SETUP[UNIT ID] ロータリースイッチに依存します。また下 6 桁は本体の MAC アドレスの下 6 桁に依存します。

RMio64-D の場合 :

R Remote で RMio64-D を操作する場合は、以下の設定項目に注意してディップスイッチや[UNIT ID]ロータリースイッチを設定してください。

ディップスイッチの設定は以下にしてください。

・ 接続方法

設定	ディップスイッチ
DAISY CHAIN	 (1 を上)
REDUNDANT	 (1 を下)

コンピューターと R シリーズを接続する

コンピューターと R シリーズを Ethernet ケーブルでつなぎます。

上記の接続方法で DAISY CHAIN にした場合は、数珠つなぎに R シリーズの Dante 端子とコンピューターをつないでください。

上記の接続方法で REDUNDANT にした場合は、Dante の [PRIMARY] 端子に接続されているネットワークスイッチにコンピューターをつないでください。

R シリーズの電源を入れる

R シリーズの電源を入れます。[「R シリーズの設定をする」](#)より前に電源を入れると、設定が反映されません。

コンピューターの IP アドレスを設定する

R シリーズと通信をするために、コンピューターの IP アドレスを設定します。

Windows と Mac で設定方法が異なります。また、「[R シリーズの設定をする](#)」の IP アドレス設定によってコンピューターの IP アドレス設定が異なります。

「[Mac の場合](#)」はリンクをクリックしてください。

Windows の場合

コントロールパネルを表示する

コントロールパネルの表示方法は OS によって異なります。

◆ Windows 7 の場合

[スタート] → [コントロールパネル]を選びます。

◆ Windows 8、Windows 8.1 の場合

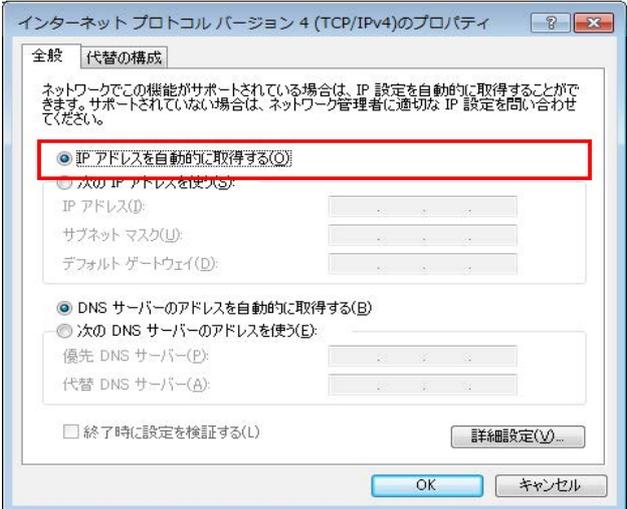
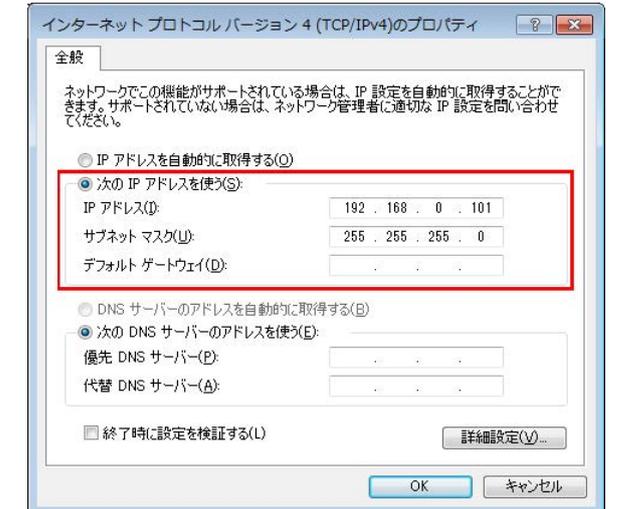
- ① スタート画面で[デスクトップ]をクリックします。
デスクトップが表示されます。
- ② デスクトップの右上または右下にカーソルを移動します。
チャームバーが表示されます。
- ③ [設定] → [コントロールパネル]を選択します。

TCP/IP を設定する

以下の手順でコンピューターの TCP/IP の設定を行ないます。

1. [コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]または[ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックまたはダブルクリックします。
「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。
2. 「ネットワークと共有センター」画面の左側の「タスク」一覧の中から[ネットワーク接続の管理]または[アダプターの設定変更]をクリックし、[ローカルエリア接続]をダブルクリックします。
「ローカルエリア接続の状態」ダイアログボックスが表示されます。
NOTE
 - ・「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]または[はい]をクリックしてください。
 - ・「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示された場合、手順 4 に進んでください。
3. [プロパティ]をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
NOTE
 - 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]または[はい]をクリックしてください。
4. [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)]を選択して、[プロパティ]をクリックします。
「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

5. 「R シリーズの設定をする」の IP アドレスの設定によって、以下のように設定します。

AUTO IP または DHCP	STATIC IP (AUTO)
<p>[IP アドレスを自動的に取得する(O)]をクリックする。</p>	<p>[次の IP アドレスを使う]をクリックし、IP アドレスに「192.168.0.xxx(1 から 254 までのうちで、R シリーズを含めたほかの機器と重複しない値)」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を入力する。下の 192.168.0.101 は例です。</p>
	

STATIC IP(MANUAL)の場合、ネットワークに適した設定をしてください。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

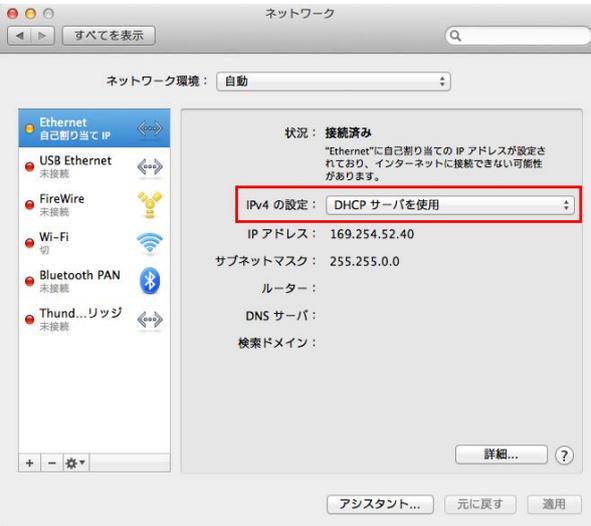
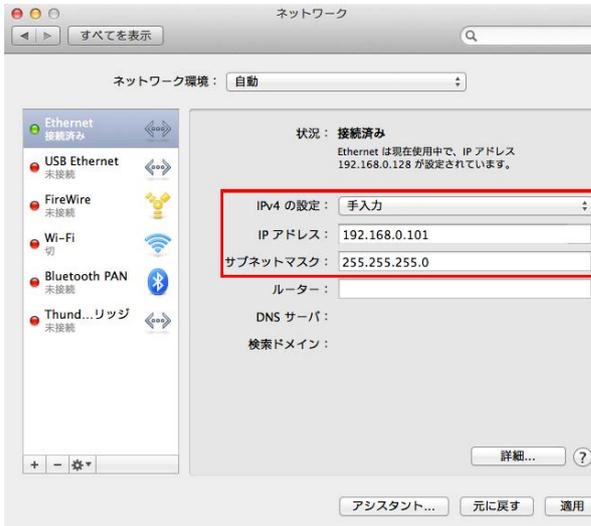
6. [OK]をクリックします。

「[Dante Controller または CL/QL シリーズでルーティングをする](#)」に進んでください。

Mac の場合

以下の手順で IP アドレスを設定します。

1. [システム環境設定]→[ネットワーク]をクリックします。
「ネットワーク」画面が表示されます。
2. R シリーズと接続するサービスをクリックします。
Mac 内蔵の Ethernet 端子を使用する場合は、[Ethernet]をクリックしてください。
3. 「[R シリーズの設定をする](#)」の IP アドレスの設定によって、以下のように設定します。

AUTO IP または DHCP	STATIC IP (AUTO)
「IPv4 の設定」で[DHCP サーバを使用]を選択する。	「IPv4 の設定」で[手入力]を選択し、IP アドレスに「192.168.0.xxx(1 から 254 までのうちで、R シリーズを含めたほかの機器と重複しない値)」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を入力する。下の 192.168.0.101 は例です。
	

STATIC IP(MANUAL)の場合、ネットワークに適した設定をしてください。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

4. [適用]をクリックしてから、「ネットワーク」画面を閉じます。

Dante Controller または CL/QL シリーズでルーティングをする

Dante Controller または CL/QL シリーズを使ってルーティングを設定してください。

Dante Controller を使ってルーティングする場合は、「Dante Controller ユーザーガイド」を参照してください。

CL/QL シリーズを使ってルーティングする場合は、各リファレンスマニュアルを参照してください。

以上でセットアップは終了です。

■R Remote を操作する

R Remote を起動します。

Windows 7 の場合：[スタート]→[すべてのプログラム]→[Yamaha R Remote]→[R Remote]を選択

Windows 8/8.1 の場合：「スタート画面」で[R Remote]のタイルをダブルクリック

Mac の場合：[移動]→[アプリケーション]→[R Remote]をダブルクリック

NOTE

- R シリーズと通信するためのコンピューターのネットワークカードを選択するための [「Network Setup」ダイアログ](#) が表示されることがあります。表示された場合、R シリーズとつながっているネットワークカードをダブルクリックするか、ネットワークカードを選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。
- Windows8 や Windows8.1 で使用する場合、ユーザーのアクセス権設定によっては「スタート画面」にソフトウェアを起動するためのタイル(アイコン)が表示されない場合があります。その場合は、以下の手順で「アプリ」画面内にソフトウェアのアイコンが表示されます。
 1. スタート画面内でマウスを右クリックする。
 2. 画面右下に現れる「すべてのアプリ」ボタンをクリックする。

メニューバー

R Remote で実行できるコマンド(命令)が、カテゴリごとにまとめられています。

クリックするとコマンドのリストが表示されます。

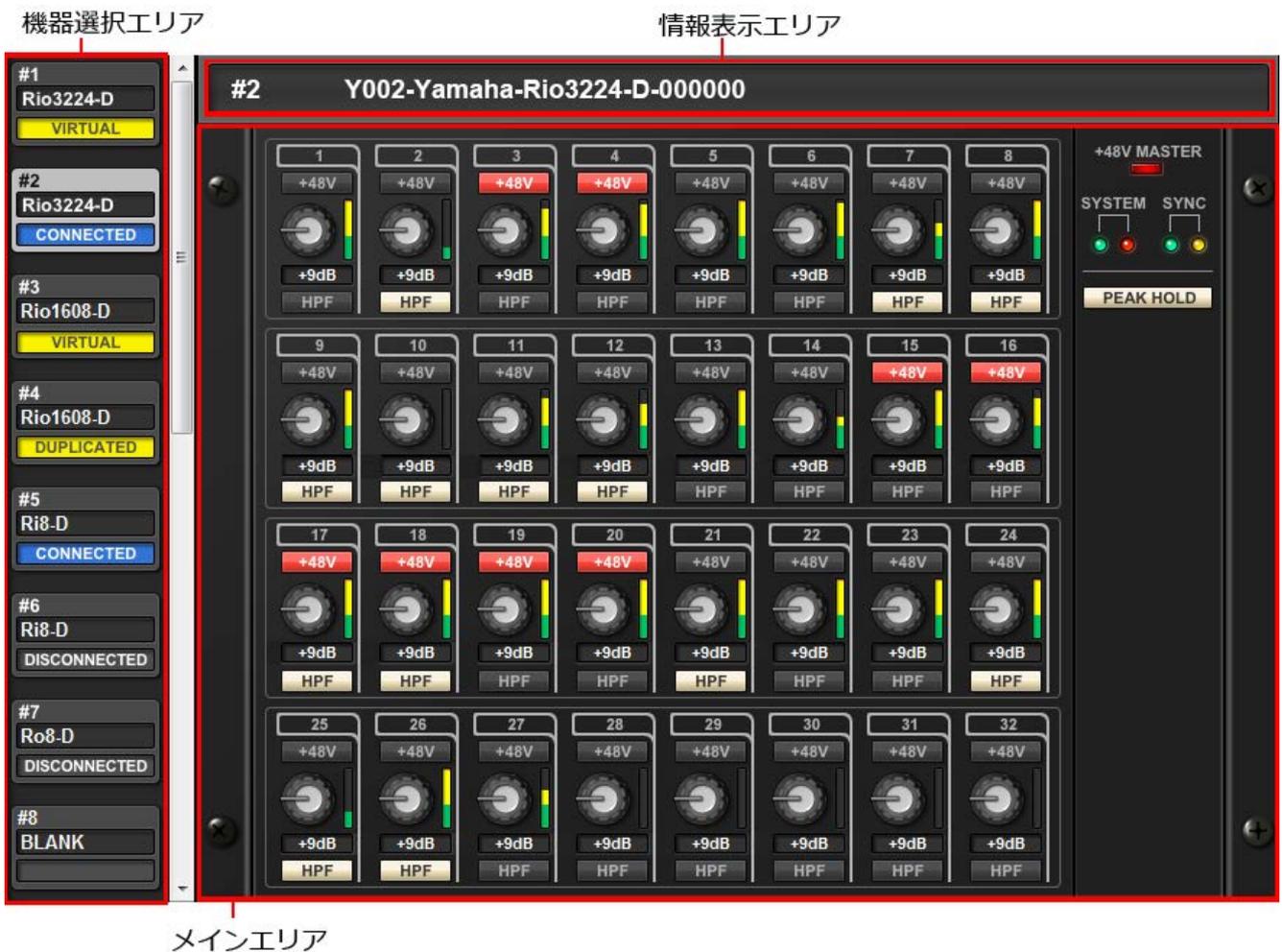


メニュー	コマンド	概要	呼び出されるダイアログ
[File]	[Open]	保存されているファイル(rrmt 形式または rrm 形式)を開きます。 NOTE R シリーズが接続されている状態でファイルを開くと、設定が R シリーズに反映されます。CL/QL シリーズなども接続している場合は、設定が上書きされますのでご注意ください。	「Open File」ダイアログ
	[Save As]	ファイルを保存します。拡張子は rrmt で、R Remote 専用のファイルになります。	「Save File」ダイアログ
	[Network Setup]	R シリーズと通信するためのコンピューターのネットワークインターフェイスカードを選択します。	「Network Setup」ダイアログ
	[Device Information]	接続されている R シリーズの情報を表示します。	「Device Information」ダイアログ
	[Quit]	R Remote を終了します。	---
[About] *1	[About R Remote]	R Remote のバージョンなどの詳細情報を表示します。	「About R Remote」ダイアログ

*1 Mac の場合は、R Remote メニューの中にあります。

エリア構成

R Remote は機器選択エリア、情報表示エリア、メインエリアの大きく 3 つの部分に分かれます。



機器選択エリア



表示切り替えボタンをクリックすると、対応する R シリーズが情報表示エリアとメインエリアに表示されます。

表示切り替えボタンが選択されている状態で左ボタンをプレスすると、該当する R シリーズの全インジケータが点滅するので、対応する機器本体を識別することができます。

表示切り替えボタンを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが開きます。

コマンド	概要
[Mount]	「Mount」ダイアログが表示されます。マウントする機器を選択してください。
[Connect]	選択されている機器と同期状態にします。
[Disconnect]	選択されている機器と切断状態にします。
[Properties]	「Properties」ダイアログ が表示されます。

表示切り替えボタンの下側には接続状態が表示されます。

表示	状態
VIRTUAL	実際の機器が存在しない状態で、機器をマウントしている。
CONNECTING	機器と同期中になっている。
CONNECTED	機器と同期状態になっている。
DISCONNECTED	機器と同期可能だが、[Disconnect]コマンドで切断状態になっている。または通信が途切れたか、接続に失敗している。
DUPLICATED	同じ UNIT ID の機器が複数存在する。機器の UNIT ID の重複を解消してください。

NOTE

機器が以下のいずれかの状態になっている場合も VIRTUAL と表示されます。

- 機器の電源が入っていない。
- コンピューターと接続されていない。
- 設定が間違っていて通信できない。

情報表示エリア

選択されている機器の UNIT ID と名称を表示します。

ファームウェアのバージョンや IP アドレスを確認する場合は、[File]メニュー→[Device Information]で

[「Device Information」ダイアログ](#)を開いてください。

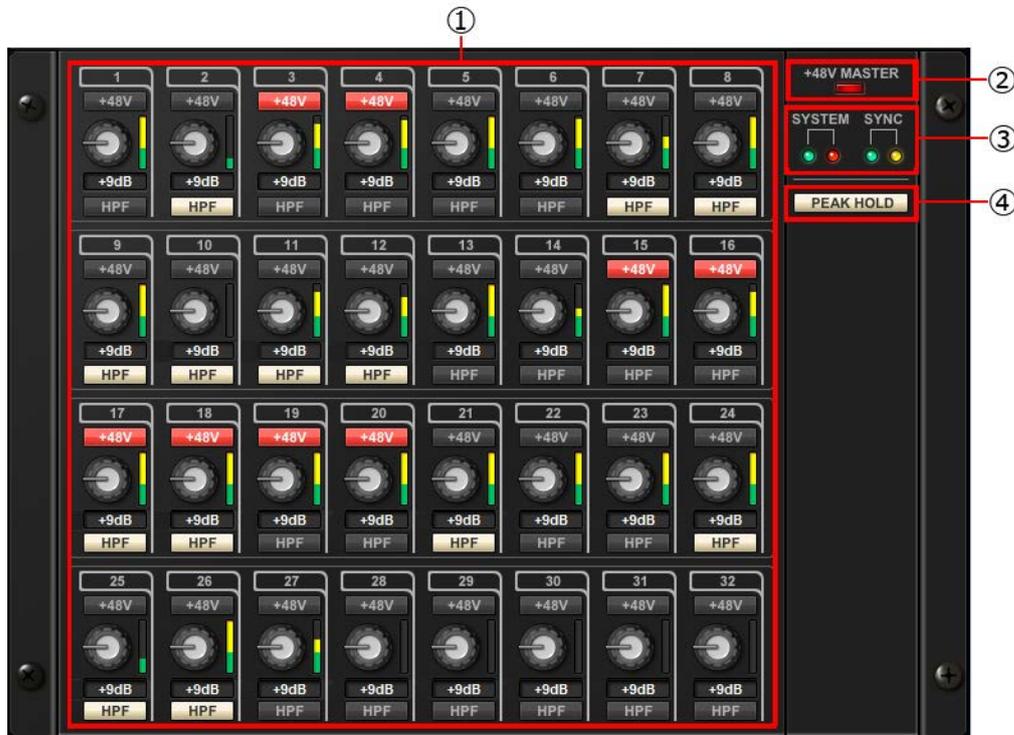
メインエリア

選択された R シリーズの状態やパラメーターの簡易設定をします。モデルによって表示が異なります。

Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D の場合

画面は Rio3224-D の場合で説明しています。モデルによって HA 表示部の数が変わります。

操作子以外のところをダブルクリックまたは右クリックで[Open Edit Window]を選択すると、[Edit ウィンドウ](#)が表示されます。



① HA 表示部

Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D の HA の設定を表示/設定します。

機器の端子番号が表示されている部分でマウスの左ボタンでプレスすると、機器本体の該当端子のインジケーターが点灯します。



① a) [+48V]ボタン

チャンネルごとのファンタム電源のオン/オフを切り替えます。

① b) GAIN ノブ

機器の HA のアナログゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。

数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの入力レベルを確認できます。ノブ部分でのショートカットやコンテキストメニューには次のものがあります。

操作	動作				
<Ctrl> (<command>) + クリック	アナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。				
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アナログゲイン量を 0dB にします。				
右クリック	以下のコンテキストメニューを表示します。 <table border="1" data-bbox="758 376 1428 571"> <tbody> <tr> <td>[All Default]</td> <td>全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。</td> </tr> <tr> <td>[All 0dB]</td> <td>全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。</td> </tr> </tbody> </table>	[All Default]	全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。	[All 0dB]	全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。
[All Default]	全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。				
[All 0dB]	全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。				

③ [HPF]ボタン

機器の HA に内蔵されているハイパスフィルターのオン/オフを切り替えます。カットオフ周波数を設定する場合は、[Edit ウィンドウ](#)で設定してください。

② [+48V MASTER]インジケータ

機器のマスターファンタム電源のオン/オフ状態が表示されます(オン/オフの切り替えは、機器本体で行ないます)。

③ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。

④ [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

Edit ウィンドウ

メインエリアの操作子以外のところをダブルクリック、または右クリックで[Open Edit Window]を選択すると表示されます。

機器の HA の詳細設定を表示/設定をします。ウィンドウを閉じるときは、Windows は右上の[×]ボタンをクリックして閉じてください。Mac は左上の[×]ボタンをクリックして閉じてください。

画面は Rio3224-D の場合で説明しています。モデルによってチャンネル切り替えタブの数が変わります。



① デバイス名

機器の UNIT ID とデバイス名を表示します。

② [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

③ 表示ポート切り替えタブ

Rio3224-D や Rio1608-D のときに、表示するポートを切り替えます。

④ ポートインデックス

機器のポート番号が表示されます。マウスの左ボタンでプレスすると、機器本体の該当ポートのインジケーターが点灯します。

⑤ [+48V]ボタン

ファンタム電源のオン/オフを切り替えます。

⑥ [A.GAIN]ノブ

機器の HA のアナログゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。

数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの入力レベルを確認できます。

ノブ部分でのショートカットやコンテキストメニューには以下のものがあります。

操作	動作				
<Ctrl> (<command>) + クリック	アナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。				
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アナログゲイン量を 0dB にします。				
右クリック	以下のコンテキストメニューを表示します。 <table border="1" data-bbox="753 519 1433 710"> <tbody> <tr> <td>[All Default]</td> <td>全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。</td> </tr> <tr> <td>[All 0dB]</td> <td>全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。</td> </tr> </tbody> </table>	[All Default]	全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。	[All 0dB]	全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。
[All Default]	全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。				
[All 0dB]	全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。				

⑦ [GC]ボタン

オーディオネットワーク上の信号レベルを一定にするゲインコンペンセーションのオン/オフを切り替えます。オンにすると、ゲインコンペンセーションにより固定されたゲイン値が表示され、それ以降のアナログゲインの変更は機器内蔵のコンペンセーションゲインで補正されます。Dante ネットワークには有効にする直前の値に固定されたゲイン量で音声を送出されます。

NOTE

コンペンセーションゲインには限界があります。ノブの左方向には 24dB、右方向には 48dB までしか補正しません。たとえば 30dB でゲインコンペンセーションをかけると、アナログゲインを 6dB にするまでは補正を維持しますが、アナログゲインを 4dB にすると送出するゲイン値は 28dB になります。この状態で 6dB 以上に戻すと、また 30dB にするための補正をかけます。

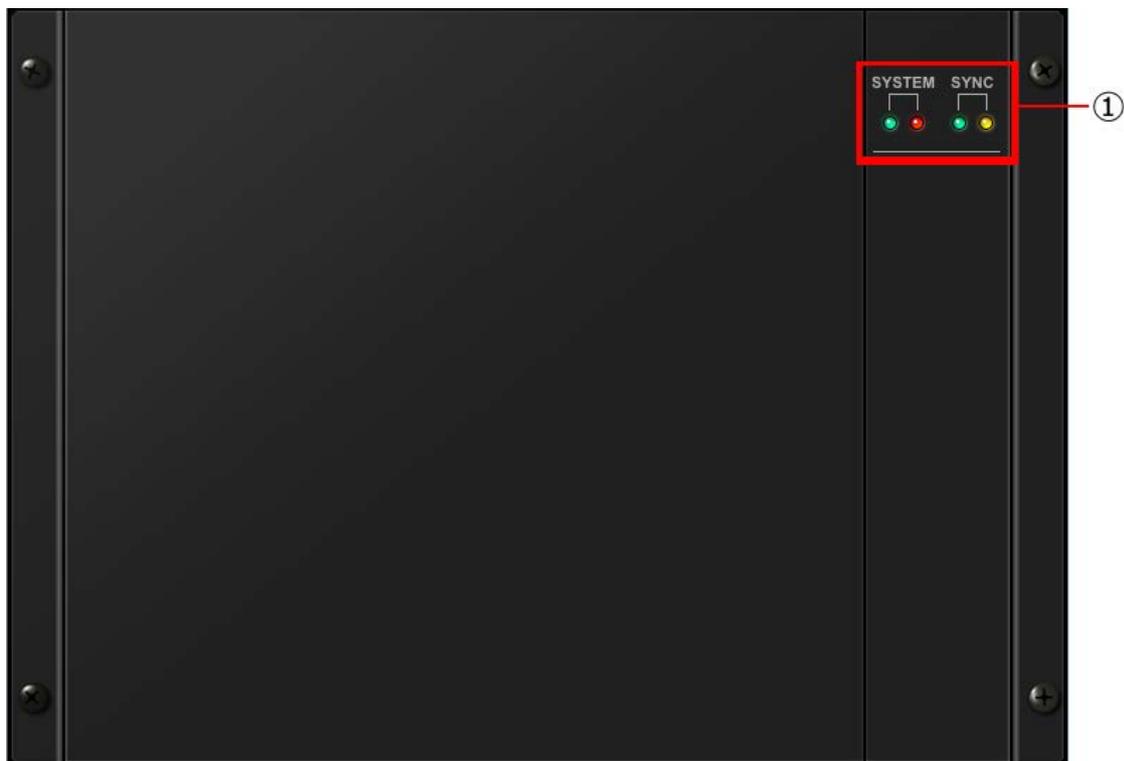
⑧ [FREQ]ノブ/[HPF]ボタン

機器の HA に内蔵されているハイパスフィルターのオン/オフ切り替え、およびカットオフ周波数の調節を行いません。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。

[FREQ]ノブの上で<Ctrl> (<command>) + クリックをすると、カットオフ周波数が初期値(80Hz)になります。

Ro8-D の場合

Ro8-D では操作できる設定が無いので、[SYSTEM]インジケータと[SYNC]インジケータのみが表示されます。

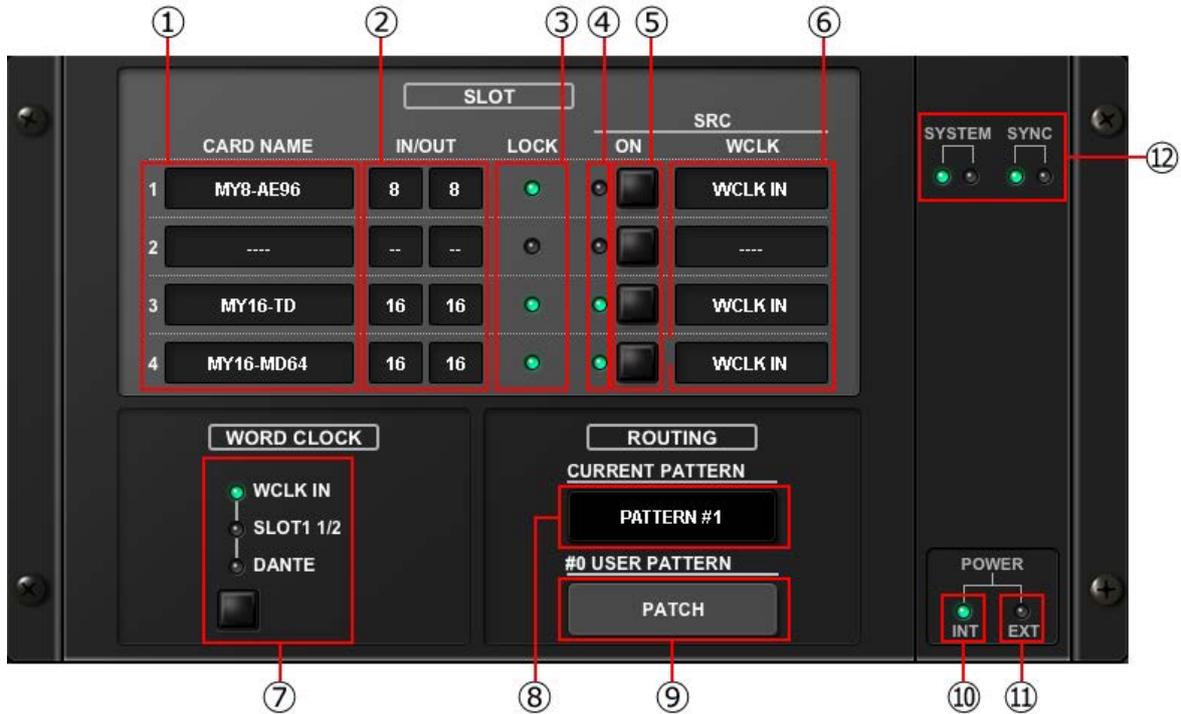


① [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。

RSio64-D の場合

RSio64-D の設定を変更することができます。



① カード名

スロット 1~4 に装着されている各カードの名前が表示されます。未装着の場合は、「---」と表示されます。

② IN/OUT PORT

スロット 1~4 に装着されている各カードの入力ポート数および出力ポート数が表示されます。カードが装着されていない場合は、「---」と表示されます。

③ SLOT1~4 [LOCK]インジケータ

スロット 1~4 のワードクロックの状態(ステータス)を表示します。正常に動作しているときは、緑色で点灯します。

消灯	スロットにカードが挿入されていない。または未対応のカードが挿入されています。
緑(点灯) LOCK	WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースと同期したクロックが、カードから入力されていることを示します。該当するスロットに外部機器が接続されている場合は、その機器と RSio64-D との間で正常に入出力が行なわれています。なお、サンプリング周波数が近接している場合、非同期であってもこのステータスを示すことがあります。
緑(点滅) SYNC ERROR	カードからは有効なクロックが入力されていますが、WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースとは同期していません。該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器と RSio64-D の間では、正常に入出力が行なえません。SRC を ON にすることで正常に入出力を行なえます。

赤(点灯) UNLOCK	カードから有効なクロックが入力されていません。該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器と RSio64-D との間では、正常に入出力を行なえません。
赤(点滅) WRONG WORD CLOCK	WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースの周波数が、スロットに挿入されたカードの動作周波数範囲外です。クロックソースの周波数をカードの動作範囲にするか、SRC をオンにしてください。また、アナログカードの場合は、SRC をオンにすることによって、RSio64-D 内蔵の 48kHz で動作します。

④ SLOT1~4 [SRC]インジケータ

スロット 1~4 の SRC(Sampling Rate Converter)の状態を表示します。

消灯	SRC がオフ。
緑(点灯)	SRCがオンで、RSio64-D のSRC WCLKディップスイッチで選択したクロックが正常に入力されています。
赤(点灯)	SRCはオンになっていますが、適切なクロックが入力されていません。RSio64-D のSRC WCLKディップスイッチで選択したクロックが入力されていないか、動作範囲外であることが考えられます。SRCをオフにするか、ディップスイッチの設定を変更してください。

NOTE

スロットに挿入した Mini-YGDAI カードへの SRC クロックは、RSio64-D の SRC WCLK ディップスイッチで選択します。

⑤ SLOT1~4 [SRC]ボタン

スロットの IN 側、OUT 側両方の SRC のオン/オフをスロットごとに切り替えます。

⑥ WORD CLOCK ソース

スロット 1~4 の SRC のワードクロックソースを表示します。

SLOT	スロットに挿入されているカードのワードクロック信号を使用している場合。
WCLK IN	リアパネルのWORD CLOCK IN端子から入力されているワードクロック信号を使用している場合。
----	カードが挿入されていない場合。

⑦ WORD CLOCK セレクトボタン

RSio64-D 本体のワードクロックソースを選択します。

- WORD CLOCK WCLK IN インジケータ
- WORD CLOCK SLOT1 1/2 インジケータ
- WORD CLOCK DANTE インジケータ

RSio64-D 本体のワードクロックソースの状態を表示します。

WCLK IN	RSio64-D のリアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力されているワードクロック信号を使用している場合に点灯します。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1 します。
------------	--

SLOT1 1/2	RSio64-D のスロット 1 のチャンネル 1/2 のワードクロックを使用している場合に点灯します。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1します。MY8-AEB 使用時*2はチャンネル 7/8 のワードクロックを使用します。
DANTE	Dante ネットワークのワードクロック*3を使用している場合に点灯します(有効な Dante 信号入力がない場合は、内蔵 Dante モジュールが生成するクロックで動作します)。

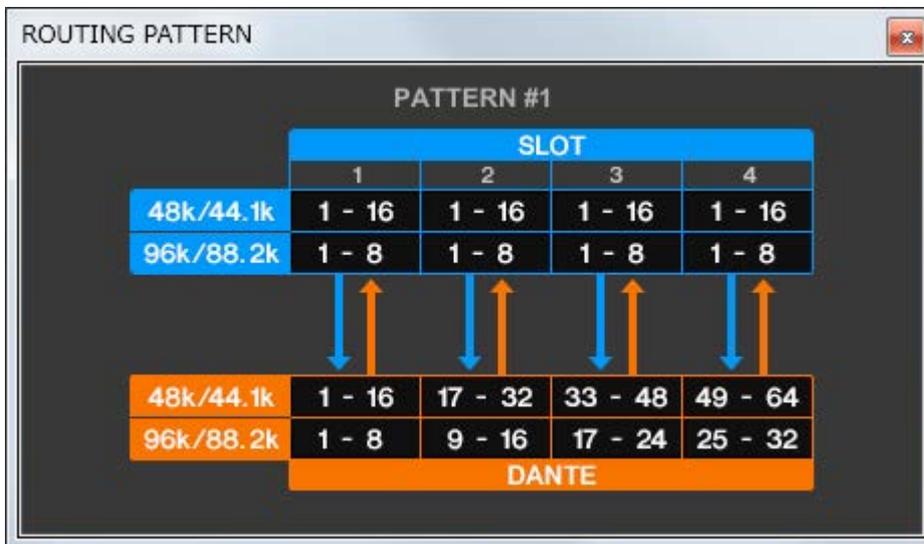
*1 点滅時は Dante ワードクロック*3 で動作し、入出力が行なえます。

*2 MY8-AEB を使用する場合は、カードの AE ⇄RSVD スイッチを RSVD 側に設定してからご使用ください。

*3 Dante ワードクロックの周波数を変更する場合は、Dante Controller を使用してください。

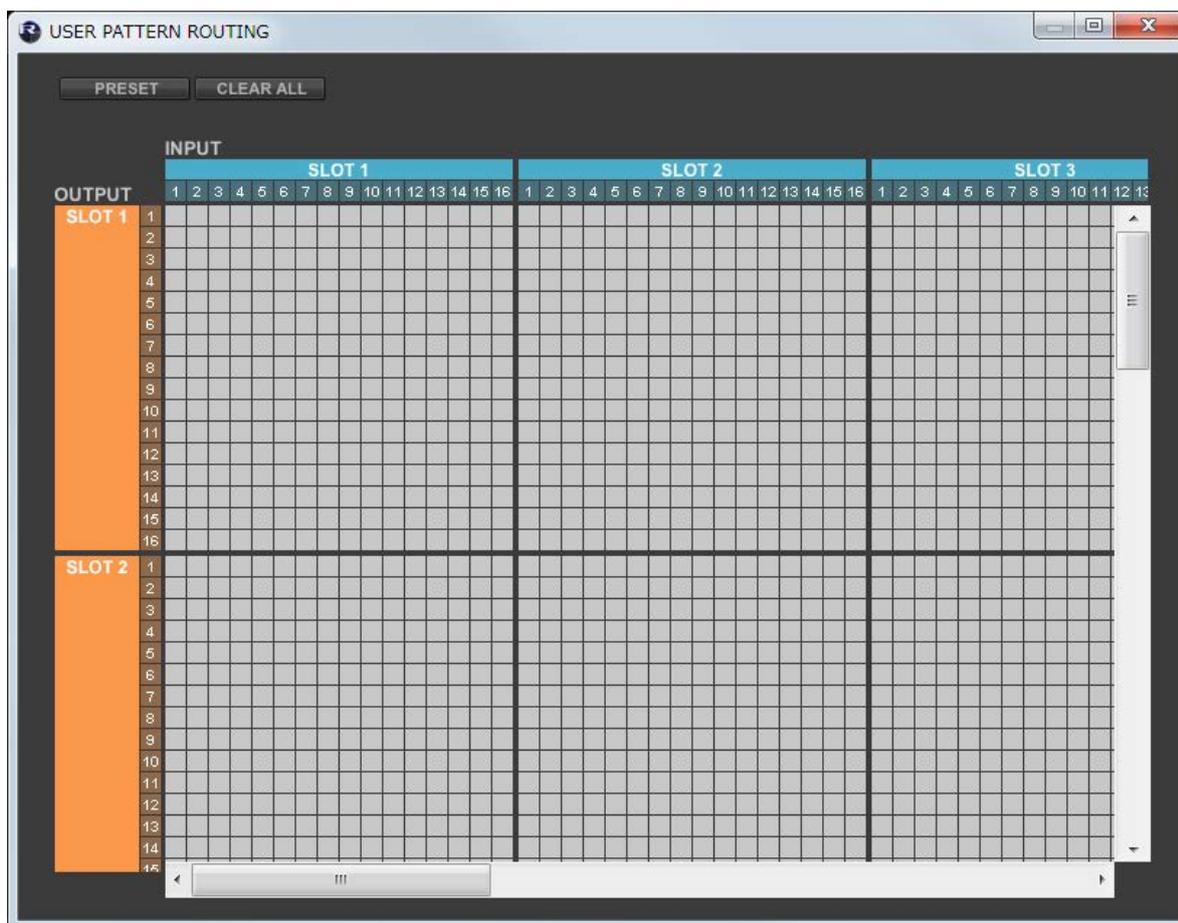
⑧ [CURRENT PATTERN]ボタン

ボタンを押すと、RSio64-D 本体内で現在選択されているルーティングパターンを表示します。RSio64-D でルーティングパターンを切り替えた場合は、3 秒経つと反映されます。



⑨ [USER PATTERN]ボタン

ボタンを押すと、RSio64-D 本体内のルーティングユーザーパターンを設定する USER PATTERN ROUTING 画面が開きます。



- **PRESET** ボタン **PRESET**
パッチ編集のテンプレートとして、プリセットパターン 1~7 から選択して呼び出します。
- **CLEAR ALL** ボタン **CLEAR ALL**
パッチのすべてがクリアされます。

⑩ POWER INT インジケータ

RSio64-D の AC IN 電源の通電状態を表示します。電源スイッチがオフの場合は、AC IN への電源の供給状態によらず消灯します。

⑪ POWER EXT インジケータ

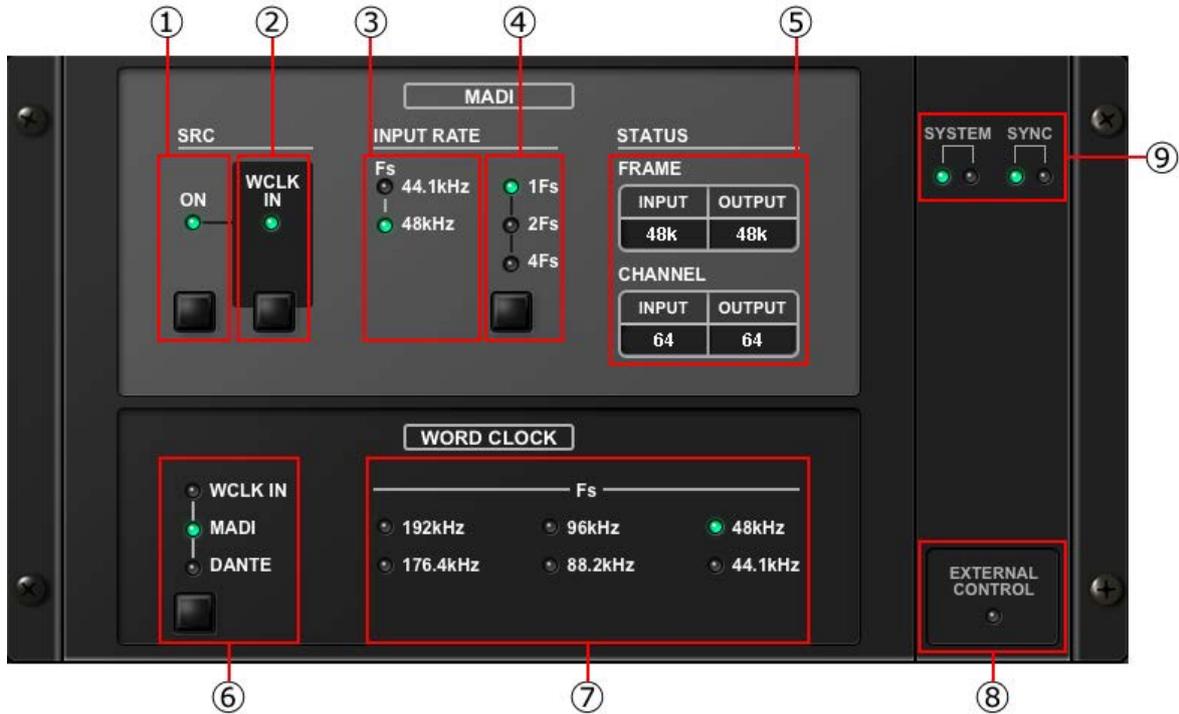
RSio64-D の EXT DC INPUT 電源の通電状態を表示します。EXTDC INPUT 電源が供給されていれば点灯します。電源スイッチの状態には影響されません。

⑫ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。

RMio64-D の場合

RMio64-D の設定を変更することができます。



- ① MADI [SRC ON]インジケータ
MADI [SRC ON]ボタン
SRC (Sampling Rate Converter)のオン/オフを切り替えます。
- ② MADI [SRC WCLK IN]インジケータ
MADI [SRC WCLK IN]ボタン
RMio64-D のリアパネルの MADI WCLK IN FOR SRC 端子から入力されているワードクロックを SRC の基準クロックとして使用する(点灯)/使用しない(消灯)を切り替えます。
- ③ MADI [INPUT RATE Fs 44.1kHz]インジケータ
MADI [INPUT RATE Fs 48kHz]インジケータ
MADI の入力信号が 44.1 kHz ベースか 48 kHz ベースかを自動判別して点灯します。有効な MADI の入力信号がないときは消灯します。
- ④ MADI [INPUT RATE 1Fs]インジケータ
MADI [INPUT RATE 2Fs]インジケータ
MADI [INPUT RATE 4Fs]インジケータ
MADI [INPUT RATE] 1Fs/2Fs/4Fs ボタン
MADI の入力周波数に合わせて 1Fs(1 倍)/2Fs(2 倍)/4Fs(4 倍)を選択します。たとえば MADI の入力信号が 192kHz(48 kHz の 4 倍)のときは、MADI INPUT RATE Fs 48kHz インジケータが点灯していることを確認して「4Fs」を選択します。

NOTE

「2Fs」選択時は、MADI 入力信号のフレーム周波数（48 kHz/96 kHz）を本体が自動判別します。

- ⑤ MADI [STATUS INPUT]ステータス
MADI [STATUS OUTPUT]ステータス
MADI の入力信号と出力信号の情報(フレーム周波数/チャンネル数)を表示します。

- ⑥ WORD CLOCK [WCLK IN]インジケータ
WORD CLOCK [MADI]インジケータ
WORD CLOCK [DANTE]インジケータ
WORD CLOCK [WCLK IN/MADI/DANTE]ボタン
ワードクロックソースを選択します。

WCLK IN	RMio64-D のリアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力されているワードクロック信号を使用します。有効なワードクロック入力がないときはインジケータが点滅します。
MADI	MADI入力信号のワードクロックを使用します。有効なワードクロック入力がないときはインジケータが点滅します。
DANTE	Dante ネットワークのワードクロックを使用します。

- ⑦ WORD CLOCK [Fs]インジケータ
本体が動作しているワードクロック周波数を表示します。同期が取れていないときは点滅します。
- ⑧ [EXTERNAL CONTROL] インジケータ
外部からのリモートコントロールでのみ操作できるパラメーターが有効になっているときに点灯します。
リモートコントロールで操作できるパラメーターについては RMio64-D の取扱説明書の「リモートコントロール」をご参照ください。
- ⑨ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ
機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。

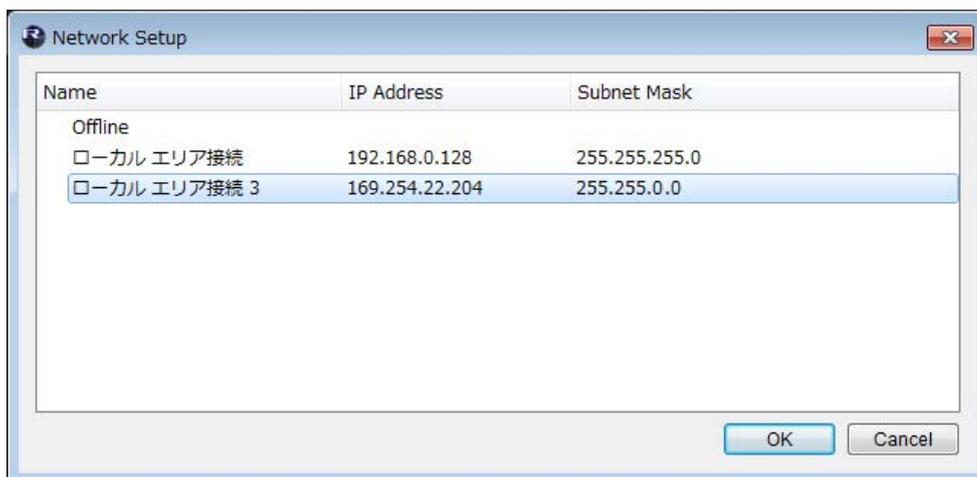
「Network Setup」ダイアログ

[File]メニュー→[Network Setup]を選択すると表示されます。

R シリーズと通信するためのコンピューターのネットワークインターフェイスカード(以下「ネットワークカード」と呼びます)を選択します。

注記

ネットワークカードを変更すると、各種設定が初期化されます。現在の設定を使う場合は、設定をファイルに保存してからネットワークカードを変更してください。



① ネットワークカードリスト

R シリーズと通信するためのネットワークカードを選択します。ネットワークカードをダブルクリックすると、ダブルクリックしたネットワークカードに設定してダイアログが閉じます。

R シリーズをつながずに設定のみをする場合は、[Offline]を選択してください。ネットワークカードを選択すると、接続されているネットワークに負荷がかかります。

② [OK]ボタン

設定を更新し、ダイアログを閉じます。

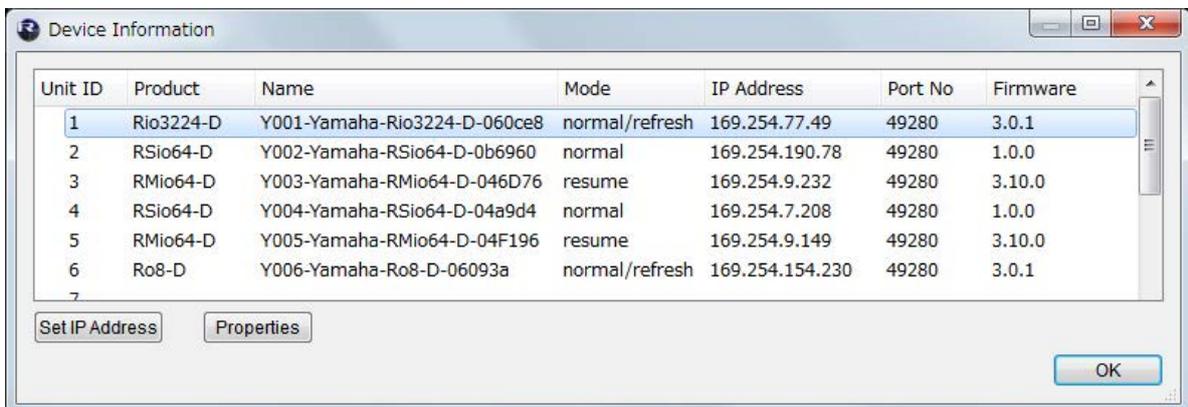
③ [Cancel]ボタン

設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

「Device Information」ダイアログ

[File]メニュー→[Device Information]を選択すると表示されます。

接続されている R シリーズの情報の一覧を表示します。



① 機器リスト

Unit ID などの項目名の部分を右クリックすると、表示する項目を選択できます。

- **Unit ID**
R シリーズの UNIT ID が表示されます。
- **Product**
R シリーズのモデル名が表示されます。
- **Name**
R シリーズの機器名が表示されます。この名前は Dante Controller で変更できます。
- **Mode**
R シリーズの START UP MODE が表示されます。
- **IP Address**
R シリーズに設定されている IP アドレスが表示されます。
- **Port No.**
R シリーズの通信用ポート番号が表示されます。
- **Firmware**
機器本体ファームウェアのバージョンが表示されます。

② [Set IP Address]ボタン

クリックすると、選択している機器の [「IP Address」ダイアログ](#) が表示されます。(RMio64-D を除く)

③ [Properties]ボタン

クリックすると、選択している機器の [「Properties」ダイアログ](#) が表示されます。

④ [OK]ボタン

ダイアログを閉じます。

「IP Address」ダイアログ

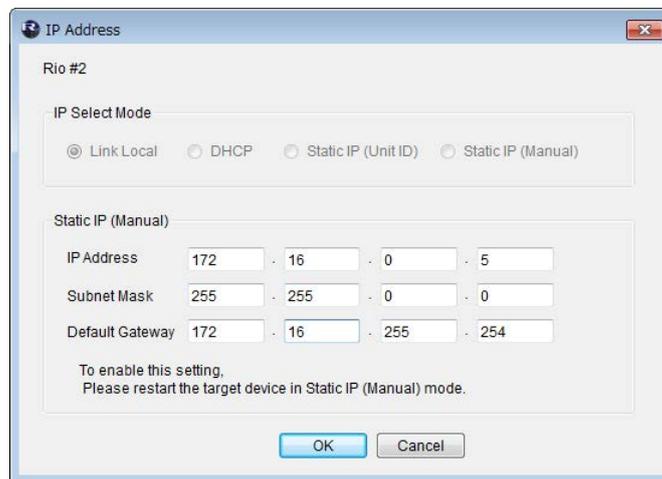
「Device Information」ダイアログで[Set IP Address]ボタンをクリックすると表示されます。
機器の IP SELECT MODE の状態確認や、STATIC IP (MANUAL)の機器の IP アドレスなどの設定をします。

NOTE

RMio64-D には IP Address 設定機能はなく AUTO IP にて自動的に設定されますので、[Set IP Address]ボタンは無効となります。

RMio64-D 以外の R シリーズを STATIC IP(MANUAL)で使用する場合は、以下の手順で設定をしてください。

1. R シリーズを STATIC IP(MANUAL)以外のモードで起動する。
2. R Remote を起動する。
3. 「Device Information」ダイアログで、STATIC IP(MANUAL)にしたい機器を選択する。
4. 「IP Address」ダイアログで Static IP(Manual)に必要な情報を入力する。
5. [OK]ボタンをクリックする。
6. R シリーズを STATIC IP(MANUAL)モードの設定にして、再起動する。



① IP Select Mode

機器の IP SELECT MODE が表示されます。

② Static IP(Manual)

機器の IP SELECT MODE が STATIC IP(MANUAL)で起動されたときに使用する IP アドレスなどを設定します。

③ [OK]ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

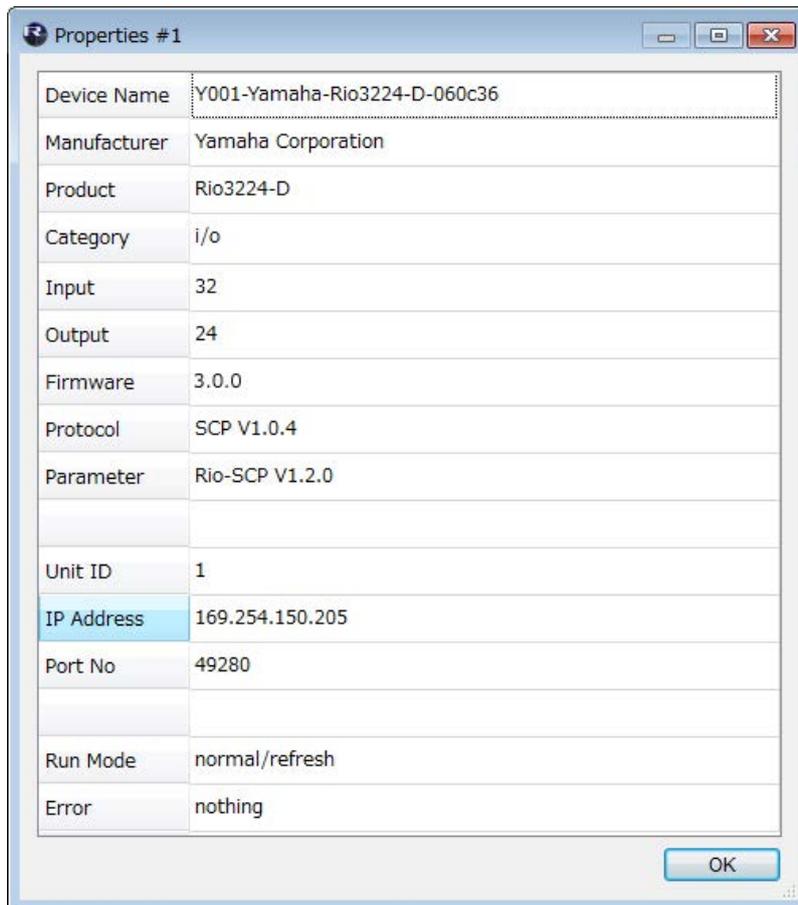
ここで設定した IP アドレスに変更する場合は、機器のディップスイッチを STATIC IP (MANUAL) の設定にしたあと、機器を再起動してください、

④ [Cancel]ボタン

設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

「Properties」ダイアログ

「Device Information」ダイアログで[Properties]ボタンをクリックすると表示されます。
接続されている機器の情報を表示します。



① [Information]表示部

機器の情報を表示します。機器が繋がっていない場合は、情報が表示されません。

② [OK]ボタン

ダイアログを閉じます。

■ソフトウェアのアンインストール (アプリケーションの削除)

Windows の場合

アンインストールは「[コントロールパネル](#)」から実行します。

[コントロールパネル]→[プログラムと機能]または[プログラムのアンインストール]で、削除したい項目を選択し、[アンインストールと変更]をクリックします。

ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックしてください。

Mac の場合

インストーラーに同梱されている「Uninstall R Remote.app」をダブルクリックします。

■困ったときは

症状	原因	対策方法
R シリーズが接続されない	R シリーズの電源スイッチがオンになっていない	電源スイッチをオンにしてください。
	R シリーズのディップスイッチの設定が正しくない	「R シリーズの設定をする」 を見て、適切な設定にしてください。
	R シリーズの UNIT ID が 1 から 24 以外に設定されている	UNIT ID を 10 進数表記での 1 から 24(16 進数表記の 1 から 18)の範囲で設定してください。 数字については「 10 進数/16 進数早見表 」を参照してください。
	ケーブルが正しく接続されていない	橙色の[SYNC]インジケータが点滅している場合、ケーブルが断線しているか、正しく接続されていないことをあらわします。ケーブルを正しく接続してください。
		REDUNDANT モードの場合、[PRIMARY]端子に接続されているネットワークスイッチに接続してください。
	コンピューターの IP アドレス設定が正しくない	コンピューターの IP アドレスを R シリーズのディップスイッチ設定に合わせて設定してください。
	ネットワークカードの選択が間違っている	「Network Setup」ダイアログ で、R シリーズと通信するネットワークカードを選択してください。
	ファームウェアが古い	V3.00 以降のファームウェアを使用してください。
R シリーズが AD8HR モードになっている	ディップスイッチ 5 と 6 は上にして、NATIVE モードにしてください。	
音が入力されない / 入力レベルが小さい	HA のゲインが適切なレベルでない	HA のゲインを適切なレベルに設定 してください。

	外部機器から信号が出力されていない	外部機器から信号を出力して、該当チャンネルの SIG インジケータを点灯させてください。
	コンデンサーマイクが接続されているのに、ファンタム電源が供給されていない	[+48V MASTER] スイッチをオンにしてください。 該当チャンネルの ファンタム電源をオン にしてください。
	CL/QL シリーズが接続されていない状態で REFRESH モードになっている	RESUME モードにしてください。
HA のゲインを調整しても音声レベルが変化しない	ゲインコンペンセーションがオンになっている	ゲインコンペンセーションが不要な場合は、 ゲインコンペンセーションをオフ にしてください。
[UNIT ID] ロータリースイッチやディップスイッチの設定が反映されない	電源がオンの状態で設定を変更した	R シリーズの電源を入れ直してください。
R シリーズを認識しない	Windows ファイアウォールで通信をブロックされている	以下の手順で R Remote が Windows ファイアウォールでブロックされないようにしてください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コントロールパネルを開く。 2. 右上の「表示方法」で [カテゴリ] を選択する。 3. [システムとセキュリティ] をクリックする。 4. [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] をクリックする。 5. 「許可されたプログラムおよび機能」で「Yamaha R Remote」にチェックを入れ、右のチェックボックスにもチェックを入れる。 6. [OK] ボタンをクリックして、コントロールパネルを終了する。
R シリーズと接続が切れる	(Mac) App Nap を切っていない。	App Nap を切にする にチェックを入れてください。
	コンピューターがスリープ状態になった。	コンピューターがスリープ状態にならないように設定してください。

10 進数/16 進数早見表

R Remote では 10 進数の 1 から 24 までしか使用しません。

10 進数	16 進数
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	A
11	B
12	C

10 進数	16 進数
13	D
14	E
15	F
16	10
17	11
18	12
19	13
20	14
21	15
22	16
23	17
24	18

10 進数	16 進数
25	19
26	1A
27	1B
28	1C
29	1D
30	1E
31	1F
32	20
33	21
34	22
35	23
36	24

10 進数	16 進数
37	25
38	26
39	27
40	28
41	29
42	2A
43	2B
44	2C
45	2D
46	2E
47	2F
48	30